

中干しを徹底して葉色を適正化！出穂は平年並かやや早い見込み。穂肥は遅れずに適量を！

●出穂期予測（水田農業研究所、出穂期予測 6月30日現在）

- 出穂期は平年並かやや早まる予想です（表1）。
- 今年は中干し期間中に降雨が多く、うまく中干しできていない圃場が多く見られます。穂肥の時期になっても葉色が適正域まで低下せず、穂肥のタイミングに悩むおそれがあります。また、今後気温が高く推移すると出穂期はさらに早まる可能性があります。「結果的に遅い穂肥になってしまった」とならないように、作溝により中干しを強化するとともに、葉色が濃い場合は、穂肥の時期を遅らせず、減肥して施用しましょう。

表1 幼穂による出穂期予想(水田農業研究所(鶴岡市藤島) 6月30日調査)

品種名	熟期	平年出穂期	予想出穂期	平年差
あきたこまち	早生晩	7月26日	7月26日	±0日
ひとめぼれ	中生晩	8月 2日	8月 1日	-1日
はえぬき	中生晩	8月 1日	8月 1日	±0日
雪若丸	中生晩	8月 2日	8月 1日	-1日

●品種ごとの穂肥診断の方法

1. はえぬき

- 出穂 25 日前（平年 7/10 頃）、窒素成分 1.5~2.0kg/10a を基本とする。
- 7/10 頃（10.4 葉期）に生育診断を行い、穂肥の量と時期を決定する（図1）。
- 茎数 700 本/m²以上、又は葉色（SPAD 値）40 以上であれば生育過剰。いずれかの場合は、穂肥量を窒素成分 1.0kg/10a に減らし、両方に該当している場合は、穂肥を行わない。

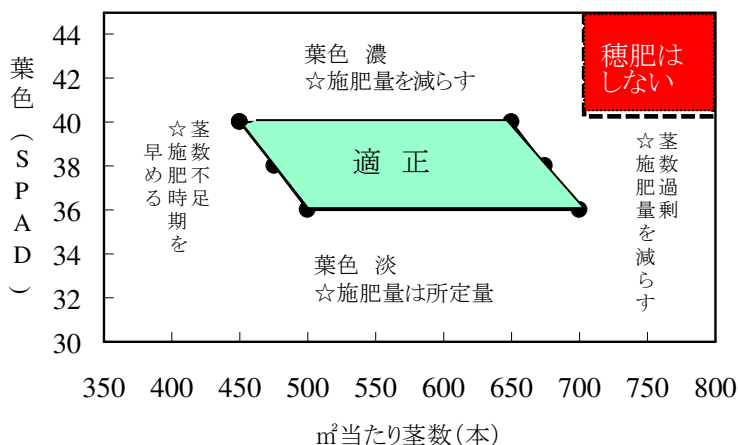


図1 はえぬきの7/10の茎数・葉色による診断と穂肥対応

表2 茎数・葉色早見表

m ² 当たり 茎数 (本)	株当たり茎数 (本)	
	60 株植/坪	70 株植/坪
700 本/m ²	38	33
450 本/m ²	25	21

葉色 (SPAD)	葉色 (葉色板)
40.0	5.0
36.0	4.6

2. つや姫

- 穂肥は、出穂 30 日前（平年 7/10 頃）が基本。
- 7/10 頃に生育診断を行い、生育に合わせて穂肥を実施！（図 2）。

- ① 茎数 600 本/m²以下かつ葉色 39 以下
⇒出穂 30 日前に窒素成分 1.5kg/10a を施用
- ② 茎数 600～650 本/m²、又は、葉色 39～41
⇒窒素成分 1.0kg/10a 以下に減肥
- ③ 茎数 650 本/m²以上、又は、葉色 41 以上
⇒出穂前 25 日頃まで葉色が低下したら、窒素成分 1.0kg/10a 以下に減肥
※葉色が低下しない場合は、穂肥を行わない

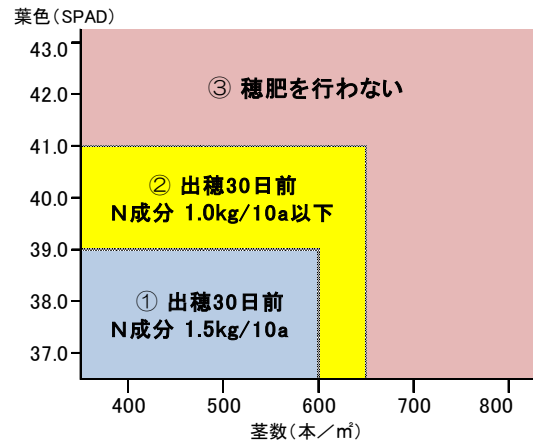


図2 つや姫の 7/10 の茎数・葉色による診断と穂肥対応

3. ひとめぼれ

- 穂肥の時期と量は、地力に応じて調整する（表 3）。
- 出穂 20 日前（7/14 頃）の生育を確認し、穂肥診断を行う（表 4）。
- 出穂 30～35 日前（6/29～7/4）の草丈+30cm、出穂 20～25 日前（平年 7/9～14）の草丈+15～20cm が稈長の目安となる。稈長が 82cm 以上で倒伏程度が高まるので、これを目安として対応する。

表 3 ひとめぼれの基本的な穂肥体系（表中の数字は窒素施肥量（kgN/10a））

	幼穂形成期 (-20 日)	穂孕期 (-10 日)
地力高	1.0～1.5	—
地力中	1.0～1.5	0.5

表 4 ひとめぼれの 7/14 頃（出穂 20 日前）の倒伏診断と穂肥対応

7/14 頃の生育		穂肥診断
草丈	葉色 (SPAD)	
66cm 未満	40 未満	基本どおりとする
	40 以上	葉色が低下した後に穂肥する
66cm 以上	40 未満	減肥する
	40 以上	穂肥を行わない

4. コシヒカリ

- 穂肥の時期と量は、地力に応じて行う（表 5）。
- 7/20 頃（11.5 葉期）に生育を確認し、穂肥診断を行う（表 6）。
- 茎数と葉色から倒伏が懸念される場合は減肥する。減肥で対策が困難な場合は倒伏軽減剤（※特裁では使えない）の使用を検討する（表 6）。

表 5 コシヒカリの基本的な穂肥体系(kgN/10a)

	幼穂形成期 (-18～15 日)	穂孕期 (-10 日)
地力高	1.0～1.5	—
地力中	1.0～1.5	(0.5)

表 6 コシヒカリの 7/20 頃の草丈と葉色による倒伏診断と穂肥対応

草丈 (cm)	葉色 (SPAD)	草丈×葉色	窒素施肥量 (kgN/10a)
71	33	2300 以下	1.0～1.5
72～75	34～37	2400～2700	0～1.0
76	38	2800 以上	倒伏軽減剤使用



定期的に水分と休憩を取りましょう



- 作業は涼しい時間帯に
- 定期的に休憩を

- 塩分と水分をこまめに補給
- 作業は涼しい服装で